

## 回鶻譯本安慧の俱舍論實義疏

(圖版第三圖 参照)

### 一 緒 言

題記の書は英國のスタイン (Sir Aurel Stein) 氏が一九〇七年に、有名なる敦煌の洞窟から獲たもので、今は大英博物館 (British Museum) の所藏に歸し、スタイン蒐集文書中、Ch. XIX, 001 と Ch. XIX, 002 との番號を附せられて居るものである。同氏の著はした *Ruins of Desert Cathay* の挿圖<sup>①</sup>に示された所に依つて、其の書物の形を知る事が出来るし、Serindia の圖版<sup>②</sup>に依つて、其の數紙の見本を見る事が出来る。Ch. XIX, 001 の卷頭に、漢字で「阿毗達磨俱舍論實義疏卷第一」と記され、それに對應する三行の回鶻文を隔て、同じく漢字で「悉地羅末提造…… (此の間回鶻文) ……唐言安惠」と見えて居るので安惠の作つた俱舍論の疏と認められるが、スタイン氏の言ふ所によると、<sup>③</sup>ロス (Sir Denison Ross) 氏は之を世親 (Vasubandhu) の阿毗達磨俱舍論に附した安慧 (Sthiramati) の註の上に、更に加へられたる疏 (Super-commentary) と見て居るとの事であり、ロス氏が作つた「スタイン氏蒐集、回鶻文書の目録」<sup>④</sup>にも、同様に *Super-commentary on Sthiramati's commentary on the Abhidharmakośa of Vasubandhu* と記されて居る。自分は後に述べるやうに、少しく見解を異にして、之を以て直ちに安慧の俱舍論の疏と見るものであるから、前記の標題を附した譯である。